

平成29年度 府立久美浜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校計画の重点 (短期経営目標)
<p>本校の歴史と伝統を踏まえ、校訓「意欲、克己、創造」の精神を培い、個性を生かし社会に貢献できる若者の育成を目標とする。</p> <p>1 総合学科の特色を生かし「社会で求められる力」を育てる。</p> <p>2 地域貢献する活動をとおして、生徒の自己肯定感・有用感を育む。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 地域創生推進校事業等を活用し、社会人との交流会の実施など、キャリア教育の充実に努めた。</p> <p>(2) 先進校（施設）の見学やプレゼンテーションを積極的に取り入れ、学習活動の質を高めた。</p> <p>(3) 松林再生プロジェクトや健やか生きがい教室、京丹後市内の公共イベント等におけるボランティア活動をとおして、地域創生に資するとともに「社会で求められる力」を伸ばした。</p> <p>(4) 出前授業など幼・小・中学校並びに他校との交流を推進し、学習内容を深化させた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 家庭での学習時間を増やし、学力を向上させる。</p> <p>(2) 探求的な学習活動を拡大するとともに、学習成果を発表する機会を多く持たせる。</p> <p>(3) キャリア教育を一層充実させ、適性に応じた進路選択と希望進路の実現を促進する。</p> <p>(4) 人権教育の内容を整理し、再構築を図る。</p> <p>(5) 主権者教育の内容を充実させる。</p> <p>(6) 広報活動の充実により、中学生並びに地域住民への効果的な情報発信を行い、本校理解を促進する。</p>	<p>1 高校生活の充実</p> <p>(1) 基本的な生活習慣の確立と意欲的な高校生活の実践を促し、自尊感情を高める。</p> <p>(2) 進路意識を高め、進路目標の達成並びに自己の可能性に挑戦しようとする姿勢を養う。</p> <p>(3) 部活動加入率の向上を図るとともに、ボランティア活動等への積極的な参加により、高校生活の充実を図る。</p> <p>2 授業改善の推進</p> <p>(1) 基礎・基本を重視し、学力の定着を図る。</p> <p>(2) 上級学校への進学を保障し得る、発展的な授業を展開する。</p> <p>(3) 大学並びに関係機関と連携し、高度な知識・技術を習得するとともに、専門性の高い人材を育成する。</p> <p>(4) 地域創生推進校事業による地域に根ざした体験的な活動を推進し、郷土愛を高めるとともに地域に貢献する人材の育成を図る。</p> <p>(5) 各種資格の取得を促進する。</p> <p>3 キャリア教育の充実、学校連携の推進</p> <p>(1) 産業社会と人間・総合的な学習の時間・LHRの計画的・組織的な指導により、キャリア教育の充実を図る。</p> <p>(2) 異校種との連携を強化をし、自己の可能性に気づき、人間性を高める機会とする。</p> <p>(3) 効果的な広報活動により中学生並びに地域住民の理解を促進し、積極的な生徒募集に努める。</p>

評価は次のように表記しています。

A: 十分達成できている B: ほぼ達成できている C: あまり達成できていない D: ほとんど達成できていない

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題
組織運営	地域創生推進校事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざした体験的な活動を推進し、郷土愛を高めるとともに主権者教育を充実させ、地域に貢献する人材の育成を図る。 	A	A	<p>生産科学系列生徒による松林保全活動や「産業社会と人間」の地域研究、福祉系列生徒による京丹後市「健やか生きがい教室」や車いす駅伝への参加等、キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰にもつながった継続的な取組を本年も実施した。加えて、今年度は福祉系列生徒による認知症啓発DVD制作協力、「手話・点字」選択生徒による手話歌披露や稲葉本家パンフレット点訳など、新たな地域貢献の活動も行った。</p>
		<p>(生産科学系列)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元農家（本校OB）や農林行政機関、小・中学校、大学、JA等との連携を密にし、教育効果を上げるとともに地域に貢献する活動を行う。 <p>【年間延べ10回以上】</p>	A	A	<p>こども園との連携2回、小学校との連携2回、大学との連携1回、行政・JAとの連携5回、先進農家の方との連携5回等、様々な事業を実施する中で多くの学びを得ることができた。</p>
	安心・安全・快適な教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な安全点検の実施により、危険箇所を早期に発見し修繕を行う。 ・冷暖房に係る経費を確保し、教室等の学習環境を快適に保つ。 <p>【学校評価アンケートでの教育環境満足度80%以上】</p>	B	B	<p>学校評価アンケート（生徒）の「本校では、清潔で落ち着いた学習環境が整備されている」の項目で肯定的な評価が66.7%であった。</p> <p>職員による安全点検を実施し、外壁等の危険箇所の修理を行った。</p> <p>冷暖房の経費を優先し、快適な学習環境を目指した。また、生徒用トイレの洋式化に着手した。</p>
	学校評価の仕組みの改善によるチーム力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標の達成状況についての自己評価が、全教職員の評価の総和によるものとなるように評価の仕組みを改善し、目標達成に向けて全教職員が一丸となって取り組む体制を構築する。また、生徒・保護者による学校評価アンケートの結果を教育活動の具体的な改善につなげる。 	A	A	<p>全教職員の評価の平均値にもとづきながら、関係分掌等を中心に評価を行った。</p> <p>また、学校評価アンケートの結果を全教職員で共有し、教育活動の改善につなげた。</p>

家庭・地域との連携	P T A活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 本部役員・学級委員を中心に各種行事を盛り上げるとともに参加者の増加を図る。 【年間来校回数 5 回以上の保護者50人以上】 	B	B	<p>新規事業について、「学年行事」は参加者に好評であり、親睦を深める機会になった。「いか〜で久美高」は周知が十分でないことが課題として残った。また、学級懇談会の出席者が少ないことについて対策を考える必要がある。年間来校回数 5 回以上の保護者は29人だった。</p>
	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ホームページをタイムリーに更新する。 【特色ある行事や授業等について週 5 件以上掲載】 	A	A	<p>ホームページは昨年度より多くの回数を更新し、情報を発信できた。さらに更新回数を増やすために、多くの授業や活動で、小さなことでも生徒の様子を発信するという姿勢を持ちたい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 学校広報紙「久美高だより」により、中学生・地域住民へ効果的な情報発信を行い、本校への理解を促進する。 【「久美高だより」を月 1 回発行、学期に 1 回新聞折り込み】 【学校情報メールを月 1 回以上配信】 (生産科学系列) 各種広報誌への掲載、有線放送等の広報活動を充実させ、本校の農業教育の様子を積極的に情報発信する。 	A		<p>「久美高だより」は予定通り発行できた。学校情報メールもほぼ予定回数を配信した。</p>
授業規律の確立	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を守り、授業を大切に育てる。 【授業規律カード（授業における生徒指導報告用紙）による複数回の指導 0 件】 	B	B	<p>授業規律カードによる指導は合計19件で、うち今年度 2 回目の指導が 1 件あった。最適な学習環境を保つために、学校全体でさらに改善を目指す必要がある。</p>	
家庭学習時間の増加	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間調査の結果を分析し、具体的な方策を講じて家庭学習時間の増加を目指す。 【調査前の家庭学習時間 1 日平均120分以上の生徒の割合50%以上】 	C	C	<p>担任の働きかけや教科からの指導により学習時間の増加を促した。各定期考査前に学習時間の調査を行ったが、1 日平均120分以上の生徒の割合は10～20%程度で推移した。</p> <p>今後は学校全体で学習時間が大幅に増加するような取組を考える必要がある。</p>	
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着を図り、提出物の状況を改善して、成績不振者を減少させる。 【長期休業中の課題の期日までの提出率80%以上】 	B		<p>目標は達成できなかったものの、目標に近い76.9%の提出率であり、課題未提出による成績不振を減少させることができた。また、期日に提出できなかった生徒については、教科担当や担任からの指導を強化した。</p>	

学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得を奨励し、個々の進路実現の一助となるべく指導する。 【卒業までに全生徒が資格・免許・修了証を一つ以上取得】 <p>(生産科学系列)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識と技術の習得を図り、生産活動に臨む心構えを持たせる。また、農業クラブ活動を活性化させることにより、農業鑑定競技や和牛審査、農業情報処理、意見発表等の充実を図る。 【入賞3回以上】 	B	B	<p>3年生の取得率は69%であった。検定受検者を増やすとともに、合格に向けた指導をさらに徹底する必要がある。</p> <p>(生産科学系列)</p> <p>和牛審査競技会における優秀1名のみという結果であった。校内で農業鑑定競技を約20年ぶりに実施できたが、全国大会出場には至らなかった。府連盟大会では、意見発表2部門に参加したが、入賞はできなかった。</p>	
	<p>(福祉系列)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉に関する体験活動を充実させる。 【新たな内容の体験学習を二つ計画実施】 ・福祉校長会表彰に値する生徒を育てる。 【介護検定3級合格(3年生)100%・4級合格(2年生)75%以上】 	B		B	<p>(福祉系列)</p> <p>新たな体験活動を3回企画・実施し、地域交流を深める活動ができた。学習深化につながる体験学習のあり方を今後も模索したい。介護検定については、4級は全員合格、3級は1名が不合格だった。</p>
	<p>教員の教科指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材やプレゼンテーションソフトを取り入れた授業展開を工夫する。 ・調べ学習などの研究・開発を推進する。 ・公開授業週間等に積極的に授業を公開し、指導方法の交流を図る。 【公開授業または研究授業を一人1回実施】 	A		A	<p>視聴覚教材やプレゼンテーションソフトを取り入れた授業、調べ学習については、学校全体での取組はできなかったが、多くの教科で工夫して実施した。</p> <p>公開授業については、11月の公開・研究授業週間を中心に全員が実施した。6月と合わせると複数回実施した教員も多い。</p>
<p>読書活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で読書や学習支援を意識した本の特集を行うほか、本の紹介等の機会を増やし、読書活動を推進するとともに図書館の利用を促進する。 	A	A	<p>「先生のおススメブックリスト」や「科学道100冊」展に係る選書、調べ学習での早期情報提供により、より活用される良書の整備を進めることができた。</p> <p>公共図書館からの取り寄せ希望や、廊下で掲示している毎月のテーマ本への問い合わせも昨年度より大幅に増えており、読書意欲の高い生徒が多くなった。一人あたりの貸出冊数では、昨年度を上回った。</p> <p>また、ボードゲームや飲食コーナー、読茶会の導入により、日常的に学校図書館へ足を運ぶ生徒が、1年生を中心に多くなった。多様な価値観の共有により、読書の幅も広がることを期待できる。</p>		

生徒指導	健全な生活態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ、あいさつ、遅刻欠席の防止の指導を強化し、自律した生活ができるようにする。 <p>【再点検等10%未満】</p>	B	A	<p>身だしなみは、落ち着いてきているが、来年度はもうひとつ上の着こなしを目指す。元気なあいさつは不十分である。</p> <p>毎週アンケートを取り、問題行動の早期発見、指導を行った。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> 日常の生徒の状況をしっかりと観察し、問題の早期発見、早期指導に努める。 <p>【毎週1回アンケート調査を実施】</p>	A			
		<ul style="list-style-type: none"> 規範意識を向上させ、健全な生活態度を維持させる。 <p>【薬物乱用防止講演会、ネット利用講演会の実施】</p>	A			講演会を実施し、薬物乱用防止の啓発を行った。
	意欲的な高校生活の実践	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭をはじめとする学校行事を通じて充実感と達成感を持たせる。特に3年生は最高学年としての自覚と誇りを持ち、後輩の範たる行動が取れるよう意識喚起に努める。 	A	B	<p>学校祭を通して、全校生徒が充実感と達成感を得ることができた。特に3年生が素晴らしかった。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> 1年生全員の部活動への仮入部を実施するとともに、本入部をする生徒の増加に努め、部活動加入率を高める。 <p>【5月末時点での部活動加入率70%以上】</p>	C			部活動加入率は60%であった。来年度は加入率を増加させるために、学校全体で取り組みたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動への積極的な参加を促す。 <p>【参加生徒数のべ200名以上】</p>	C			例年参加している大きなイベントが中止となったことから、ボランティア活動参加人数はかなり減少した。参加生徒数はのべ151名であった。
進路指導	希望進路実現に向けての個別指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者との面談を充実させるとともに、関係教員が連携し、適切な指導を行う。 <p>【2・3年生との全員面談の実施、就職希望者の内定率100%、国公立大学合格者2名以上】</p>	B	B	3年生就職希望者への四者面談を夏季休業中に実施した。就職希望者は全員内定した。国公立大学合格者は1名であった。2年生全員を対象とする面談は、調べ学習が終わった2月から実施した。	
	キャリア教育を念頭に置いた計画的な進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 産業社会と人間・総合的な学習の時間・LHRの計画的・組織的な指導により、キャリア教育の充実を図る。 生産科学系列、福祉系列の生徒の関連分野への就職・進学を支援する。 	B	B	全学年とも計画的に分野別説明会などのキャリア教育を実施した。国立大学農学部を希望する生徒に対する指導を、農場部を中心に行った。教養系列で福祉施設への就職を希望する生徒に対して、インターンシップを実施した結果、就職内定を得られた。	

健康安全 指 導	健康維持と食育の推進	・生徒が自ら食生活（特に朝・昼食、清涼飲料水の摂取状況）を改善しようとする姿勢を育てる。 【キャンペーンの実施】	B	B	B	自分の食生活に関心を持たせるきっかけにはなったが、自ら改善する力につなげていくには様々な課題がある。
	安全意識・危機対応能力の向上	・安全教育を行い、大きな怪我や事故を防ぐ力を身につけさせる。 【教職員対象普通救命講習の実施】	A	A		普通救命講習を23名が受講した。危機対応に関して共通した正しい認識を持ち、技術を高めることができた。
	教育相談生徒に関する情報交流 並びに教育相談会議の充実	・生徒の状況について、教員間の情報交換の機会を増やし、スクールカウンセラー及び専門機関と連携した教育相談を進める。 【教育相談会議の定例開催】	B	B		短時間ではあるが、特に支援を要する生徒の情報、状況を交流することで、指導の方向性や方法を明確にすることができた。
人権教育	人権教育の構築	・学校全体で人権学習に取り組み、人権教育の構築を図る。 ・基本的人権を侵害する行為に対し、全教職員が毅然とした態度で指導する。 【教職員研修の実施】	B	B	B	教職員研修を3回実施した。グループワークでいろいろな意見を出し合い、学校全体で取り組む基礎作りができた。
	人権意識の向上	・LHR、総合的な学習の時間等を活用した計画的な指導により、生徒の人権問題についての正しい理解や認識を深める。	B	B		教員研修で出た意見を集約し、次年度からは3年間を見通した人権教育計画を作成し、実施する。

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が落ち着いてきている。明るい生徒が多く、楽しそうにしている。何も言わなくても生徒があいさつをしたり、声をかけたりしてくれる。 ・プレゼンテーションに取り組んだり、演劇表現を取り入れたりしながら、コミュニケーション能力を高めている。 ・目標が決まれば頑張れるので、早期の目標設定が大切である。 ・ほめてやる気にさせるとともに、社会に出る前に、いけないことはいけないと教えておくべきである。 ・高校時代にいろいろな経験をさせてほしい。 ・稲葉本家のパンフレットの点訳など、地域貢献の活動を今後も続けてほしい。 ・大学やJAなどとの連携を深めることが農業についての新しい学びに繋がる。
-------------------------	--

次年度に向 けた改善の 方 向 性	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間を増加させるために、課題の内容や評価方法を見直し、授業改善に努める。 ・仮入部が本入部につながらず、部活動加入率が高まらない。加入率を高めるために、部活動見学・体験が自由にできる期間を設けるなど、新たな取組を行う。 ・今年度は、例年参加している大きなイベントが中止となったことから、ボランティア活動参加人数が減少した。来年度は活動の幅を広げ、イベントの運営協力以外のボランティア活動・地域貢献活動についても積極的な参加を促す。 ・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「LHR」の内容を整理し、より計画的・組織的に実施する。 ・中学生やその保護者から選ばれる学校となるために、広報活動をより充実させ、効果的な情報発信を行う。
-------------------------	--